

# 令和2年度玉名女子高等学校 学校評価

## 本校教育の目的

本校は、普通科・ビジネス科・食物科・看護学科の各教育課程を通して、それぞれの分野の基礎・基本はもとより、専門的・職業的知識や技能を修得し、急速に発展している国際化・情報化・高度化社会に遅れることなく、将来の日本が目指している男女共同参画社会に十分対応できる人材の育成を目的とする。

## 重点努力目標

1. 基礎学力充実のための取り組み 専門性習得のための指導力の強化
2. 基本的生活習慣の確立を図るための取り組み（見えない学力の充実）
3. 文武両道
4. 人権同和教育の推進
5. 働き方改革の推進

重点努力目標に対する自己評価総括			
評価項目		評価	総括
重点目標 1	1 教師指導力の向上	B	今年度は新型コロナウイルス感染症に伴う休校措置等もあって、教育活動がかなり制限を受けた。授業の進度を優先したこともあり、生徒参加型の授業など、授業の工夫に対する生徒・保護者からの評価は決して高くはない。生徒は、授業や授業環境の改善のために、色々な意見を出している。教職員はそれぞれのスキルアップのために前向きに反省して、次年度に繋げる。また、教育目標に則した指導については教員に比べ生徒・保護者の評価が低く、重点目標等、教師が共有するだけでなく、生徒・保護者にも伝える必要がある。朝読の教育的効果を得るには、教員自身の姿勢や働きかけが重要であるので、今後改善せねばならない。
	2 生徒の基礎学力の向上を図る	B	生徒の約8割は肯定的な評価であり、教職員の意識のそれと同程度である。生徒の進路保障のために基礎学力を身につけさせるということが重要であることが理解していながら、朝読や放課後の学び直しトレーニング（マナトレ）については効果に疑問を持つ職員が少なくない。まずは、学校一丸となって取り組むことに気持ちを寄せて、クラスの実情に合わせて効果が出るように工夫したり、研究することも必要である。教職員の積極的な働きかけが課題である。
	3 専門性習得のための指導力の強化	A	専門学科を多く有する本校にとって、この項目の肯定的な結果はとても重要である。生徒・保護者ともに8割以上の肯定的評価を得ている。教職員についても、それだけの準備と指導をしているという自負が数字に表れている。今年度の教育スローガン「科の個性を際立たせる」に対する各科の取り組みの評価である。しかしながら、専門学科の知識や技能の習得のものさしになる資格取得や検定合格については、昨年よりポイントを下げている。コロナ禍ではあったとはいえ、学習のモチベーション維持に関わるものであるがゆえ、生徒たちの意欲の喚起とともに、教職員の指導力向上も重要であると考える。
重点目標 2	4 基本的生活習慣の確立と安全な生活指導	B	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止で、いままでに例のない休校措置が取られ、生活が一変した。この間は休校通信等で情報発信をし、また担任が定期的に連絡を取りながらきめ細やかな指導に努めた。7月豪雨では家庭の被害状況は少なかったが、JRの不通等で生活時間や登校手段が変わったりしてリズムに乗れない生徒がいた。年度初めの指導が徹底できなかったとはいえ、基本的な生活習慣を身につけること、掃除に対する積極的な姿勢を備えることなど、本校の教育の要に対する生徒の評価が下がっていることは課題である。また、教職員は真摯に生徒たちに寄り添っているつもりであるが、生徒や保護者はそう感じておらず、コミュニケーションの充実、信頼関係の構築が大切である。
重点目標 3	5 進路指導を目指した指導	B	教職員の肯定的評価が下がっているのは、生徒の成績のデータ分析を始め、学力把握などの取り組みを始めて、新たな課題等を認識したことによる、前向きな変化だと思われる。新型コロナのための休校により、年度当初のオリエンテーション等が十分にできていなかったこともあるが、生徒自ら進路指導室に足を運ぶような働きかけが必要である。「開かれた進路室」づくりに着手し、進路だよりの発行等で保護者等にも情報発信をすることで、生徒の肯定的回答をさらに上昇させられるよう、また保護者にもしっかりと理解を促す。進路指導の充実、本校活性化の柱であり、安定した生徒募集にもつながるので、研究を続ける。
	6 文武両道を目指す学習と部活動の両立	B	部活動のガイドラインを策定して実施する初年度となる予定であったところに、新型コロナのための休校等で、活動に制限を受けたことで、指導者と生徒の思いに差異が表れた結果となった。時間を惜しんで情熱を注ぐ指導者に対して、試合やコンテストなどでその成果を発揮する場を失った生徒の心情からすれば、「活動の推進」という点では評価を下げている。今後も感染症対策と同時に、時短・縮小・効率化に向けての工夫、加えて、学習とのバランスを考えた活動の実践を心掛けるようにしたい。また、それぞれの部活動が、再び全国の舞台上で「玉名女子」の名前を轟かせられるよう学校を挙げて応援する。

重点目標 4	7	人権同和教育の推進といじめを許さない心の涵養	B	<p>「いじめのない環境づくり」「ハラスメントに配慮した教育」については教職員の肯定感が高い。毎年、年間2回の教育相談、夏休みの三者面談、「心のアンケート」等を通して生徒の実態把握に努めているが、生徒の評価はそれほど高くない。しかしながら、徐々に数値は上がってきているので、さらに向上させられるように、信頼関係の構築、そして安心・安全な環境を整えていく。心の涵養の面では、一日一詩、朝読で習慣をつけることにより、図書館利用に繋がりたいが成果は出ていない。ボランティアについては、感染症対策で校外での活動ができなかったこともあるが、校内では募金活動や家庭クラブ（被災地への雑巾づくり・未使用のタオル収集ほか）などを展開できたので、次年度の活動に繋げていく。異文化理解と国際交流は、新型コロナの影響で交流の機会が作られなかったので、オンライン等交流手段・方法について模索する必要がある。</p>
重点目標 5	8	働き方改革の推進	B	<p>出勤退勤管理システムの導入、職員会議の工夫（内容によっては資料配布に変える）、指定休業日の設定などで、肯定的評価は上昇している。遅刻欠席連絡システムの活用で、事務やホームルーム担任の負担は軽減した。校務分掌のスリム化についても創意工夫をして、効率化を図るべきである。部活動指導については、生徒・保護者の望み、周囲の期待に応えようと、指導者は真摯に向き合っている。</p>
その他	9	魅力ある学校づくり	B	<p>コロナ禍による行事の中止・縮小を余儀なくされたため、学校行事における満足度は、教員生徒ともに低下している</p> <p>また、女子校らしさ、生徒の満足度についても教員・生徒ともに評価が低下している。感染防止に配慮した行事の在り方の検討だけでなく、学校行事や生活指導について、改めて「建学の精神」や女子教育の視点に基づいて点検し、全職員が様々な場面での自分の責任を認識し、生徒・保護者の信頼感・満足度を上げられるようにしていく。臨時休校中も含め、ホームページや安心安全メール、動画配信等を随時行ったことに対する保護者の評価は高く、保護者の教育活動に対する理解を促し、信頼感・満足度を高めるためにも有効であると考えられる。</p>